

＜ボランティア・研究者受け入れの規約＞

■「NPO 法人 外国人支援ネットワーク すたんどばいみー」の理念

本 NPO の理念は、「共生する社会の実現」です。外国人の社会的自立を目的に、かれらが様々な資源を獲得できるよう支援するということを目指しています。とくに、言語（母語・日本語）・アイデンティティの獲得とその保障を重視しながら、事業活動を行っています。教室が、上記理念に基づいているということを念頭に、行動してください。教室での基本的な行動のあり方は、以下を参照してください。

推奨事項

- 挨拶、受け答えをすること。

「挨拶」や「受け答え」をしてください。これは日本社会で「当たり前」とされている事柄です。しかし、外国人の親たちの中には、こうした「当たり前」が共有されておらず、子どもたちに挨拶等の意味が伝わっていないことがあります。「挨拶」や「受け答え」と並行して、その「意味」をわかってもらうよう、また、後の不利につながらないよう「説明」してください。他にも、例えば学校の宿題・提出物になぜ取り組む必要があるのか等々、子どもたちには了解されていないこともあります。日本社会の「当たり前」を子どもたちが知識として獲得できるよう、指導というより説明をしてください。

- 休憩時間は、なるべく子どもと遊ぶこと。
- 事後ミーティングに参加して様子を報告すること。

子どもたちは、家庭や学校のなかで落ち着いて生活できる「居場所」を獲得していない場合もあります。勉強をするために教室に参加する子どももいれば、教室が「居場所」であり、勉強よりもスタッフと会話することをしたり、他の子どもたちと一緒に遊んだりすることを楽しみにする子どももいます。子どもが何を欲しているか、子どものニーズを拾い上げるうえでも、「一緒に遊ぶ」ことはとても大切です。子どもとのやり取りで気づいたことは、事後ミーティングで報告してください。子どものニーズをすくい取ることで、教室の場を豊かにできることにつながります。

- 子どもが言いたいことを、言葉としていえるように手助けをすること。
- 子どもが自尊心や自己肯定感を高められるように、意識すること。

外国人の子どもたちは、不十分な日本語で育てられたり、親との会話や接点が不足したりしているために、日本語も母語も十分ではない「セミリンガル」になる可能性もっています。どちらの言語においても語彙が不足しているため、表現の幅が狭くイライラしてしまったり、どう言ったらよいかわからず混乱してしまったりすることもあります。ここには、親の就労環境、家庭環境を含め、様々な要因が影響を与えています。そのため、たとえ子どもの行動に違和感をもったとしても、すぐに「障がいがある!」とか「〇〇な性格だ!」と決めつけたり、そのような言葉を子どもたちに投げかけたりすることは、絶対にしないでください。言語の発達は、子どもが表現できる感情の幅を増やすことで自尊心や自己肯定感を高めるだけでなく、アイデンティティの形成にもつながります。子どもの言語発達を支え、表現の幅を増やすという意識をもつこと、そして、子どもの自尊心を傷つけないように注意してください。

- 連絡先は交換しない

電話番号やメールアドレスだけでなく、最近では、Facebook や LINE など、SNS を通じて手軽にお互いやり取りすることができます。しかし、お互いの連絡先を交換することは、トラブルのもとになるため禁止しています。しかし教室で信頼関係ができてくると、例えば、子どもの誕生日パーティに呼

ばれた、親から「ぜひ家に来てほしい」という要望を受けるといったこともあります。一概に拒否することをせず、困った際には抱え込まずスタッフに相談したり、また、すぐスタッフに相談できない場合は、ひとまず保留にしたりといった措置をとってください。手紙を出したいから住所を教えてくださいといった場合があれば、事務所の住所「神奈川県大和市中央林間三丁目16番12号グリーンコーポ中央林間107号」を教えてください。

必要な時以外、私的なことで携帯をいじらない

「携帯を取り出す」という行為は、「連絡先を教える」という行為に結びつくため、必要なときを除いて基本的に慎んでください。また、「携帯電話で遊んでもよい場」という意味にも解釈できるため、スタッフとしてはそうならないよう示してほしいと思います。

わからないことはすぐスタッフに聞く

わからないことも多く出てくると思います。その場合は、必ずスタッフに相談するようにしてください。スタッフでミーティングの場を設けていますので、そのような場を活用しつつ、初期の段階では勝手に判断したり、行動してしまったりすることがないようにしてください。